

# 鉄道ピクトリアル

1969年 8月号 Vol 19 No 8

## 特集<韓国鉄道>

日本にとって地理的にもっとも近い外国、そして活力にあふれた不思議な国——韓国の鉄道はさらにナゾに包まれたことが多い。本特集はおもに現況にスポットを当ててみた

■表 紙 「韓国国鉄観光号」……………大久保邦彦 撮影

■カラー頁 「高麗郷のスケッチ」(第14回鉄道写真コンクール推選) 有原和彦 撮影

■グラフ

### <韓国鉄道特集>

韓国帝王車	汽車会社	11
韓国鉄道[1]	大久保邦彦	12
韓国鉄道[2]	大久保邦彦	14
韓国鉄道[3]	大久保邦彦	16
旧鮮鉄の思い出[1]	高田 隆雄	48
天安駅のマティ 1 (2頁大・解説82頁)	高田 隆雄	50
旧鮮鉄の思い出[2]	高田 隆雄	52

千倉電化試運転……………編集部 18

### <第14回鉄道写真コンクール入選作品>

舞台を下る	伊藤 隆之	43
夏の深浦	安達 格	44
軽便晩夏・暮色	坂口直人・安田光弘	45
新形客車誕生	景山 允男	45
可部線延長開業	国有鉄道	54
西日本鉄道[3]	谷口 良忠	56
失われた鉄軌道 一畑電鉄立久恵線	宮沢孝一・北川亮三・原田一夫	58
トピックフォト (北海道・東北・関東・中部・関西・四国・九州だより)		83

### 日本文

#### <韓国鉄道特集>

韓国帝王車	石河 茂	19
韓国における鉄道網の形成経過	中川 浩一	20
大韓民国鉄道の現況	大久保邦彦	23
韓国国有鉄道駅名・キロ程図表		31
デロイの想出	森 佐一郎	32
デロイ後日譲	大久保邦彦	35
旧鮮鉄の車両称号規定	鶴岡 秀基	36
戦後のソウルを救ったアメリカの電車	小林 茂	37
韓国の鉄道に想う	大沼 一雄	40

今月の話題・東海道本線全通80年……………編集部 3

44年度日本鉄道建設公団事業計画(案)……………平岡 治郎 4

東京外環状線の建設について[下]……………側見 文夫 7

黄金の大釘百年祭……………和久田康雄 10

可部線全通……………長田 寛 59

千倉電化に伴う電車の配置運用……………小河 孝 61

私鉄車両めぐり(79)「西日本鉄道」(3)……………谷口 良忠 63

失われた鉄・軌道を訪ねて(24)「一畑電気鉄道立久恵線」京都大学鉄道研究会 73

書評⑩「スピード百年」(毎日新聞社編)……………和久田康雄 79

質問に答える……………80

車両の動き……………81

鉄道の話題……………82

6月のメモ帳……………91

読者短信……………82

後部車から・TTKだより……………95



## 東海道本線全通80年

東海道本線新橋—神戸間374マイルが明治22年7月1日全通(新日本鉄道史上巻16ページ)してから、今年はちょうど満80年になる。東から西から次第に伸びていった鉄道がこのとき馬場(膳所)—米原—長浜間、米原—深谷間の開通で東海道線の「全通」となったのである。

東海道本線は、以後今日の新幹線に至るまで目ざましい成長を遂げ、国の産業経済文化の各方面にわたり飛躍的な発展をもたらした。この発展のもうようはスピード史をかりかえるのが手っとり早い。

明治の初めごろまで、東京一大阪間の街道の旅は14日間を要していたものが、東海道線汽車の全通で一挙に20時間への短縮(平均時速30キロ)これから7年後の明治29年9月に東海道線に初めて急行列車が走り17時間と約3時間の短縮、国鉄初の特急列車が明治45年6月走ると共に12時間45分と短縮したが、これが大正2年C51登場によってさらに1時間を縮め、平均時速は51.2キロとなる。しかし、画期的スピードアップは昭和4年12月の超特急つばめの出現で、下り8時間14分を記録している。

これが戦後の昭和31年11月電化によって7時間半となり、さらにこだまの登場で6時間50分、平均時速81.9キロと躍進したものが、新幹線の完成でついに先人の想像も及ばぬ3時間10分が実現したものである。

東海道線は、いまもなお輸送需要は年々著しい増大をつづけており、近い将来第2・第3の新幹線の登場さえ計画され、今後も限りない発展をつづけていくことであろう。

〔表紙〕韓国国鉄観光号

大久保邦彦 撮影  
観光号試運転 '69.6

ソウル駅構内  
アサヒペンタックス 45mm 紋りF4 タイム  
1/125 サクラカラー

〔カラー頁〕「高麗郷のスケッチ」  
有原和彦 撮影  
西武E22形 東吾野—高麗 '69.1.15  
ミノルタAL ロッコール45mm 紋り8 タイム  
1/250 UV コダカラ X

TETSUDÔTOSHO KANKOKAI  
New Kokusai Bldg. Marunouchi  
3-4, Chiyodaku, Tōkyō/Japan